

キスジノミハムシの防除に関する研究

第3報 土壌処理剤による防除効果について

今村三男・糸賀繁人・堀切正俊

(鹿児島県農業試験場)

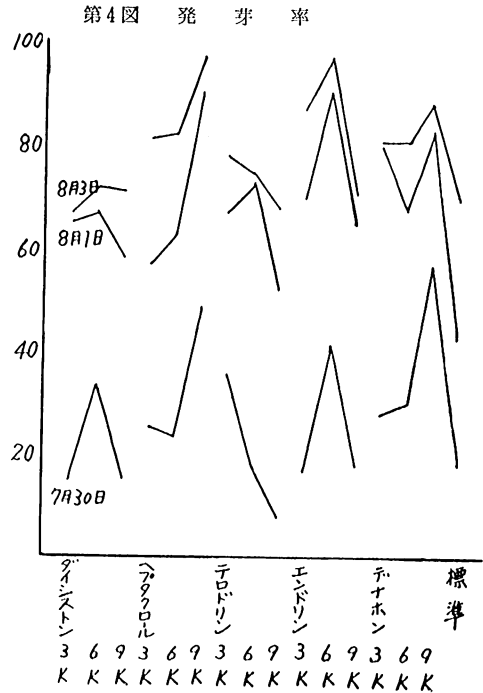
本報では土壌処理剤として現在使用されているもの他に新農薬の効果及び処理の方法等について試験した結果を報告する。

成績及び考察

1. 室内試験 (第4図) 供試薬剤は何れも発芽は良好で無処理と差はなく、また薬量を9kg まで増量しても発芽障害は認められなかつた。この結果本試験の範囲内では被害はなかつたものと考えられる。

2. 土壌処理剤の種類 (第5表) 処理区は何れも無処理区より被害は少なく効果が認められた。供試薬剤の中ではダイシストン剤が一番すぐれ次いでデナボン、エンドリン剤の順で、ヘプタクロール、テロドリン剤の効果はやや低かつた。この原因としてテロドリン剤は成分量の不足が考えられるが、ヘプタクロール剤については不明である。ダイシストン剤は本種だけでなくアブラムシ及びモザイク病の発生も少なかつたので地上散布回数減少も考えられ、残留毒性の問題と共に今後用法についての検討を続けたい。なお薬量間の差は明かにし得なかつた。

3. 処理の方法 (第6表) 薬剤の施用位置及び処理の方法を色々変えて実施したが、処理による差はほとんどなくまたアルドリン、ヘプタクロール剤間の差も明らかでなかつた。本種の防除法としての土壌処理



は現在の播種時清処理で充分効果が期待できるものと推察される。

第5表 土 壌 処 理 剤 の 種 類

薬剤名及び10a当薬量	甚	多	中	少	微	無	計	食害根率	食害度
ダイシストン 粒 剤 5% 3k	—	—	—	3	14	75	92	18.5	4.3
ヘプタクロール 粉 剤 2.5% 3k	—	—	1	8	18	45	72	37.5	10.2
同 上 6k	—	—	7	17	27	25	80	68.8	24.5
テロドリン 粉 剤 0.5% 3k	—	—	5	21	39	18	97	85.6	36.9
同 上 6k	—	—	6	17	22	8	92	91.3	38.0
デナボン 粒 剤 5% 3k	—	—	9	20	49	15	88	84.7	40.3
同 上 6k	—	—	1	17	22	8	69	59.5	24.6
エンドリン 粒 剤 2% 3k	—	—	1	11	19	45	76	40.8	11.5
同 上 6k	—	—	2	9	25	16	73	71.3	27.6
無 処 理 上	—	—	2	12	31	19	85	75.3	29.4
地上散布	—	—	18	33	17	9	77	88.4	35.5
無 散 布	—	—	9	32	25	6	74	97.3	50.8

註：試験地 伊集院町飯牟礼 7月25日播種 9月23日調査 区制 1区 16.5m² 3区制

地上散布 スミチオン乳剤 1,000倍4回 ダイブテレックス粉剤2回 計6回 処理法・播種溝処理

第6表 土壤処理剤の処理方法

区	別	甚	多	中	少	微	無	計	食害根率	食害度
播種	溝土と混和散布	—	—	—	—	5	53	58	8.6	1.7
	金肥と混和散布	—	—	—	—	1	66	67	1.6	0.3
" "	播種前土と混和	—	—	—	—	3	62	65	4.6	0.9
	散布	—	—	—	—	2	57	59	3.3	0.7
全播種	覆土後地表散布	—	—	1	2	4	48	55	12.7	4.0
	溝土播種前土と混和	—	—	4	4	2	48	58	17.2	7.6
全播種	溝面散布	—	—	—	3	9	43	55	21.8	5.5
	無処	—	—	—	—	—	55	55	0	0

註：試験地 伊集院町飯牟礼 8月12日播種 10月1日調査 区制 1区 16.5m² 3区制
 供試薬剤 ヘプタクロール粉剤 2.5% 10アール当 3kg 全面散布
 アルドリノ粉剤 2.6% " " 播種覆土後地表散布) 10アール当 5kg
 地上散布 スミチオン乳剤 1,000倍 6倍散布